

鯉種苗生産試験（昭和51年度）

佐々木 正 明，狩 野 武 俊
梶 田 恭 道

I 目 的

前年度に準じて行なった。

II 期 間

昭和51年4月1日～昭和51年11月30日

III 結 果 と 考 察

1) 採 卵 ・ ふ 化

4月中旬に親魚雄雌選別を行ない，採卵は5月中旬に行なった。

採卵は良好で，採卵作業は1回で終った。

今年は採卵時に池底に敷魚巣を行ない，出来るだけ卵の無駄をなくすように努めた。結果は良好であった。後のふ化管理においても良かったと思われた。

採卵した卵はふ化池に移して，ふ化期間中水生菌の発生を防ぐ為1日置きに5 ppmのマラカイドグリーンで80分間薬浴を行なった。期間中水生菌の発生を見る事なくふ化毛仔を得る事が出来た。

採卵・ふ化結果は表1の通りである。

表1 採卵・ふ化状況

月 日	種 別	親 魚 数	採 卵 数	ふ 化 率	備 考
51. 5. 10	真 鯉	♂ 36 ♀ 15	180万粒	80%	12, 14日 マラカイドグリーン
"	色 鯉	♂ 18 ♀ 6	55万粒	70%	5 ppmで80分間薬浴

2) 施 肥

4月下旬に，ふ化毛仔の初期餌料となるミジンコの発生を促進するため，稚魚池12面（8,750㎡）に，石灰消毒，乾燥鶏糞施肥及び水張りを終了した。毛仔放養まで，硫酸を2回追肥した。

ミジンコの発生は、池によって差が出たが、放養時には、全池共良好であった。

3) 餌 料

育仔・資仔養成期間中に使用した、餌料及び数量は表2の通りである。

表2 給 餌 量

種 類	育 仔	資 仔	親 魚	合 計
小 麦 粉	196 kg	100 kg	— kg	296 kg
配 合 粉 末	1,351	6,890	800	9,041
干 蛹	—	1,000	37	1,037
鶏 卵	10	—	—	10
合 計	1,557	7,990	837	10,384

4) 育 仔 養 成

毛仔放養にあたり、稚魚池全池から前日に中層水をピーカーに採水して適当量の毛仔を遊泳させて、状況観察をして正常な遊泳行動を予め確かめ、検苗した毛仔を放養した。

放養尾数は、出来るだけ正確さを得る為に、白色の洗面器に毛仔1万尾を数え、元を作り、それに色合せをして放養した。

毛仔放養後4日目より水餌を給与した。

水餌は煮沸した鶏卵黄を布ごしした物に、粉末配合餌料、小麦粉を調合して水に溶き、池壁周囲に、均等に1日8回散布給与した。

引続き、池壁周囲に8~10個の吊餌給与した。

毛仔放養直後より、全池にアオミドロが発生したので、すくい取り作業を反復して行ない、除去に努めた。

6月上旬に、全池にTrichodinaが寄生して、斃死が目立ったので、ホルマリンの20ppmで、40~50分間の薬浴を行ない、駆除をした。

6月下旬に、育仔選別と稲田用種苗配布を併せて、全種苗を取り揚げ、計数をした。

5) 資 仔 養 成

資仔養成、育仔取り揚げた池を、アオミドロ、少量の水草を除去し、簡単な整地を施し、石灰消毒を行ない、1~8♀物を選別して放養した。

給餌管理は、粉末配合、小麦粉、干蛹粉を練り合せて吊餌として、1日8回給与した。

近年、放流、留池の種苗の大型を望まれる様になり、取揚げ目標を、体長10～13cm、魚体重20～24gにおいて養成を行なった。

取揚げ結果は良好で、体長13cm前後、平均魚体重24g物が、約65%を示した。

青仔、黄仔の養成結果は表3の通りである。

表3 養成結果

種別	毛仔放養数	青仔取揚げ数	青仔/毛仔×100	青仔放養数	黄仔取揚げ数	黄仔/青仔×100
真鯉	900千尾	518千尾	57%	200千尾	152千尾	76%
色鯉	800	156	52	10	7	70

6) 配布

生産種苗の配布は、市町村、農協、漁協を通じて配布を行なった。

配布状況は表4の通りである。

表4 配布状況

種別	稲田用	放流用	留池用	合計
真鯉	62,600尾	50,000尾	6,040尾	118,640尾
色鯉	32,700	—	1,910	34,610